



前進

第2号

5月10日発行

文責：濱田

育てたい力：共感力・探究力・協働力

◎朝の校門の様子から

朝から佐敷橋で登校中の子どもたちを迎え、あいさつを交わしています。数名の保護者の方、地域の方も一緒に同行され、子どもたちの安全確保に協力いただいております。また、交差点等で安全に横断できるように、地域の方から指導いただくこともあり、校区全体で子どもたちを見守っていただいていることを日々実感しています。



さて、校門を過ぎた子どもたちを迎えるのは5・6年生の企画委員会を中心としたあいさつ運動です。週1回の運動ですが、

「おはようございます」という元気な声が響き渡るのは、聞いていて気持ちがよいものです。あい（挨）には、心を開くという意味、さつ（拶）には、その心に近づくという意味があるそうです。つまり、あいさつとは、自分の心を開くことで相手の心を



開かせ、相手の心に近づいていく積極的な行為であると言われていたのです。また、あいさつをするということは、「あなたの存在に気付いていますよ。」というメッセージにもなりますし、初めて会う人との会話のきっかけにもなります。人とのコミュニケーションの重要性が話題になる昨今、まずはあいさつによる心の触れ合いを大切にしていきたいと思います。



ちなみに、全校集会で、よいあいさつのポイントは①笑顔で、②相手に聞こえる声で、③相手の顔を見て、の3つだと話しました。子どもたちがあいさつできないときはこちらからあいさつをし、子どもたちのあいさつの声が小さい時は、「元気をだそうね。」の一言をかけていただくことで、意識づけにつながるかと思っています。なお、あいさつ運動には4年

生数人も自主的に参加しており、頼もしい限りです。

また、5・6年生を中心に自主・自発的に校内の掃除を行っています。朝からひたむきにほうきで落ち葉を掃いたり草をとったりする姿は、見ていて微笑ましいものです。先生方も一緒になって清掃を行う姿は、佐敷小のよさの一つです。良き伝統として残していきたい光景です。

◎授業参観お世話になりました。

4月25日(日)は多くの保護者に来校いただき、授業参観を実施しました。新型コロナウイルス感染症対策で、分散型で集まっていたり、学級懇談会が実施できなかったりと例年と異なる授業参観になりました。お子様の授業中の様子や学級の雰囲気など、参観されていかがだったでしょうか。



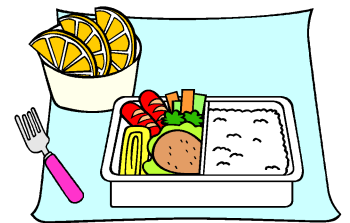
本校の先生方には、「4月は学級を固める時期として頑張ってください。」と話しました。学習規律の定着や学級のルールの確立などを丁寧に行い、子どもたちが1年間安心して学べる基礎作りを行う期間として全校で取り組んだところです。その一端をお見せできたならば幸いです。なお、お気づきの点があれば、担任の家庭訪問等と併せて学校に連絡いただきますようお願いいたします。

◎お弁当の日の取組

授業参観の日は、お弁当作ろうデーでもありました。「いっしょにコース」「ひとりでコース」を選択し、赤・黄・緑の食品群が入るように考えて作ることにしました。子どもたちのお弁当をいくつか見せてもらいながら、会話がはずみました。「これ自分で焼いたよ」とウインナーを



見せる子、「全部自分で作りました」と笑顔で教えてくれる子、「校長先生は何作ったんですか？」と興味津々に聞いてくる子など、様々でした。子どもたちが将来にわたって生きる基盤となる食に対する関心を高められるよう、研究を重ねていきます。



【校長室から】ゴールデンウィークも終わり、いよいよ学校の教育活動も充実期を迎えます。5月も各種の検診や運動能力テスト、避難訓練、プール掃除など、様々な行事を予定しています。新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組の徹底と並行しながら、それぞれの活動が充実したものになるよう取り組んでいきたいと思っております。